



暫定4次排ガス規制 ～排ガス規制の日程～

酒井重工業が販売するローラの多くは、特定特殊自動車排出ガス規制等に関する法律（通称：オフロード法）の規制対象車となっております。

オフロード法において、規制適用日以降の新型車は、経過措置および少数特例適用車を除き、排出ガス基準を満たす基準適合表示を付したものでなければ国内での使用ができません。

オフロード法では、以下に示すようにエンジン出力別に適用規制および期間が決められておりますのでご参考にしてください。

第97号

発行所 酒井重工業株式会社
住所 東京都港区芝大門1-4-8
電話 03-3434-3401
FAX 03-3434-3419
発行人 水内 健一

特定特殊自動車排ガス規制

年	平成23年(2011年)	平成24年(2012年)	平成25年(2013年)	平成26年(2014年)	平成27年(2015年)	平成28年(2016年)	平成29年(2017年)	
年度	平成23年度(2011年度)	平成24年度(2012年度)	平成25年度(2013年度)	平成26年度(2014年度)	平成27年度(2015年度)	平成28年度(2016年度)	平成29年度(2017年度)	
四半期	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4
D5 130kW以上560kW未満	2006年規制				2011年規制			
	経過措置(18ヶ月、～2013/3/31)				経過措置(23ヶ月、～2016/8/31)			
D4 75kW以上130kW未満	2006年規制				2011年規制			
	経過措置(13ヶ月、～2013/10/31)				経過措置(23ヶ月、～2017/8/31)			
D3 56kW以上75kW未満	2006年規制				2011年規制			
	経過措置(18ヶ月、～2014/3/31)				経過措置(23ヶ月、～2017/8/31)			
D2 37kW以上56kW未満	2006年規制				2011年規制			
	経過措置(13ヶ月、～2014/10/30)				2014年規制			
					経過措置(11ヶ月、～2017/8/31)			
D1 19kW以上37kW未満	2006年規制				2011年規制			
	経過措置(23ヶ月、～2015/8/31)				2014年規制			
					経過措置(11ヶ月、～2017/8/31)			

※ 表の表記はオフロード法に則っています。

130kW以上560kW未満(D5)	ER552F-1、PM550
75kW以上130kW未満(D4)	SV513、GW750-2、SV900、SD451
56kW以上75kW未満(D3)	TZ703、MW700-1
37kW以上56kW未満(D2)	R2-2、SW652-1
19kW以上37kW未満(D1)	SW352S-1、TW352S-1、SW502S-1、TW502S-1

なお、オフロード法による排出ガス規制は製作メーカー（エンジン・車両）、使用者がそれぞれ役割分担を果たすことにより担保されるものとしております。

- ・エンジンメーカー：基準適合エンジンの技術開発・製作・販売
- ・車両メーカー：基準適合エンジンを搭載した建設機械の製作・販売・普及
- ・使用者：基準適合機械の使用、点検整備、適正燃料の使用



2006年基準適合表示



2011年基準適合表示



2014年基準適合表示

新製品紹介 ～新型プレートコンパクタ PC シリーズ～

酒井重工業は、このたび、ご好評頂いているプレートコンパクタ PC シリーズをモデルチェンジし、新製品“PC43、53、63 シリーズ”として全国販売致しました。

新型プレートコンパクタ PC シリーズは、手元振動低減および低重心設計による作業時の安全性向上を実現し、ランニングコスト削減に貢献する転圧板反転機構を踏襲しつつ日常作業でより使いやすいモデルとなりました。また、低騒音モデル、散水装置など多数のオプション装備をご用意しております。

1) 作業時の手元振動の大幅低減（当社従来機比）

防振構造を見直すことにより、前方押しつけ作業時の手元振動を約 30%低減し、通常作業時の手元振動も約 25%低減しました。身体への負担を軽減し、安全に作業を行うことができます。

2) 低重心設計による作業時の安定性向上（当社従来機比）

部品配置を見直すなど、徹底した低重心設計とすることで、機械の重心位置が約 20%低くなりました。作業時の安定性が増し、より安全に作業を行うことができます。

3) 転圧板反転機構（ぐるっとプレート）の踏襲

すりつけ作業を確実にかつ長期間可能にする耐久性に富んだ高張力鋼を転圧板に採用しました。また、偏って磨耗した転圧板は前後を反転できるため、ランニングコスト削減に大きく貢献いたします。

4) エンジンガード兼用つり上げフックを標準装備

1 点吊りが可能となるフックを標準装備しており、つり上げ箇所には、ステッカが貼られております。

5) 低騒音モデルと豊富なオプション

低騒音モデルとして PC43SL、PC63SL をご用意しております。

また、搬送から施工まで幅広いニーズに対応できる以下のようなオプションをご用意しておりますので、ご用命ください。

- ・散水装置 : アスファルト合材が転圧版に付着しにくくなるよう水を滴下する装置です。すべてのモデルに散水装置を取り付けられます。

（後付け可、ぐるっとプレート対応）

- ・中折れハンドル : 搬送時、保管時に場所を取らないようハンドルが真ん中で折れるものです。
- ・手元アクセルレバー : アクセル操作をハンドル手元で行えるものです。
- ・簡易車輪 : 脱着が容易な簡易搬送車輪です。
- ・跳ね上げ車輪 : 作業時は跳ね上げることができる固定車輪です。

（PC43 を除く）

今後とも、サカイの小型締固め機械にご期待ください。



写真：PC63

概略仕様

型式			PC41	PC43	PC51	PC53	PC61	PC63
質量	機械質量	kg	47	47	57	54	69	64
性能	振動数	Hz(vpm)	96.7(5,800)					
	起振力	kN(kgf)	6.4(652)		8.8(897)	9.0(918)	10.8(1,101)	
寸法	全長×全幅×全高	mm	855×290×785	835×290×790	940×340×850	870×340×790	945×360×850	880×360×785
	転圧板 幅×長さ	mm	290×480		340×530		360×545	
機関	メーカー		ロビン					
	型式		EH09-2D				EX13D	

*機械質量：タンク容量の 1/2 の燃料質量と作動油、潤滑油、エンジンオイルの規定レベルの質量を含み、散水用水の質量は含まない。

街道グルメ旅 ～中山道上州路～

中山道は、江戸の日本橋から京都の三条大橋の間を結ぶ宿場数69の街道です。

武蔵国（埼玉県）から上野国（群馬県）へ入ると新町宿－倉賀野宿－高崎宿－板鼻宿－安中宿－松井田宿－坂本宿から信濃国の軽井沢宿へと続きます。

高崎に入って見えるのが白衣観音です。高さが41.8mもあり高崎のシンボリックな存在です。観音様から安中方面に向かうと達磨寺として有名な少林山があります。高崎だるまは縁起だるまとして親しまれ、日本一の生産量を誇っています。皆さんご存知のだるま弁当も有名ですが、指を銜えて先を急ぎます。

国道18号バイパスから旧道へ入ると板鼻宿があります。板鼻宿には孝明天皇の妹・和宮が宿泊した部屋が残されています。幕末、公武合体のために徳川家に嫁ぐため中山道で江戸に向かった和宮が板鼻宿本陣であった木島家の書院に宿泊しました。部屋には当時の資料が展示されています。

板鼻宿から安中宿へ向かいます。安中宿には、安中藩士の一般的な居宅である4軒長屋や長屋門（上級武士居宅の表門形式）のある曲がり屋造りの珍しい武家屋敷があります。もう一つの見どころは新島襄旧宅です。安中藩士新島民治の長男襄は元治元年国禁を破ってアメリカへ渡り10年間学問とキリスト教を修めました。明治7年新島襄は帰国。この旧宅で家族と再会後、同志社英学校を設立し、山本八重と結婚しました。

安中宿から松井田方面に進み、横川駅に向かいました。そろそろお腹が空いてきたので昼食は、横川の釜めしにしようか考えながら、“鉄道文化むら”から碓氷峠の関所跡へ徒歩で移動しました。碓氷峠は、関東と信濃国や北陸とを結ぶ重要な場所と位置づけられ、関所の西門は徳川幕府、東門は安中藩が管轄し、厳しい取り締りが行われていたと伝えられています。

関所跡から峠方面を見るとTVで紹介されていた関所食堂の看板が目に入りました。さっそく紹介されていたラーメンとチャーハンを注文。昔ながらのラーメンでお値段もリーズナブルでした。チャーハンも玉ねぎの甘さが感じられて美味しく碓氷峠の新たな名物と言えそうです。

帰りは18号から松井田駅方面へ寄り道、名物「上州おふくろの味 味噌まんじゅう」をいただきました。ピリ辛の味噌に茄子がたくさん入った饅頭です。

次はどこのグルメ旅をしようかなあ。



横川の釜飯



関所食堂



関所食堂のラーメンとチャーハン



味噌まんじゅう

城下町萩を歩く ～その3 高杉晋作(1)～

4. 高杉晋作(1)

高杉晋作誕生地は、東萩駅から西方向に自転車で約15分、新堀川に通じる菊屋横丁にあります。

高杉晋作の晋作は通称で本名は春風といい、萩藩士、高杉小忠太(家禄200石)・みちの長男として天保10年(1839年)に生まれました。幼少の頃は私塾に学び、のち藩校明倫館に入学、十九歳のとき安政4年(1857年)に吉田松陰が主宰していた松下村塾に入門しました。

文久元年(1861年)世子毛利定広の小姓役を命ぜられ、翌年藩命で幕使とともに上海に渡航し、海外の諸情勢をつかみ帰国しました。文久3年(1863年)には我が国最初の身分に因らない志願兵による奇兵隊を結成し、総督に命ぜられました。若くして幕末長州藩を倒幕に方向付けた尊王倒幕志士として有名になりますが、結構過激な行動を取って謹慎させられたり、脱藩して投獄されるなどエピソードには事欠かない人物だったようです。

旧宅内に晋作の写真や書などが展示され、邸内には自作の句碑「西へ行く人をしたひて 東行く 心の底そ 神や知るらん」や産湯に使った井戸があります。



産湯の井戸



旧宅内

(つづく)

技術開発部移転のお知らせ

開発と製造の融合によるモノづくりの国際競争力強化のため、技術研究所の設計部署は新たに技術開発部として、ゴールデンウィーク明けに川越の生産センター新事務棟2階へ移転しました。1階には生産センターの事務部門が移転しました。また、これまでの技術研究所は、久喜合同事務所として、研究グループ・品質保証部が活動しており、関東営業所、子会社の酒井機工・コモドが今後共同活用する予定となっております。



新建屋